



信州風樹文庫

読書をして 考える力をつけよう！



岩波弘之さん

推進大会の第3部では、長野県諏訪市にある市立図書館の信州風樹文庫から岩波弘之さんをお招きし、図書館運営を通じた地域作りについてお話いただきました。岩波さんは、館長を経て、現在は同文庫の運営委員を務められている方です。

信州風樹文庫は、他の図書館と大きく違う成り立ちを持つ図書館です。通常、市立図書館は地方自治体が地域の住民に「ぜひ勉強してもらいたい」ということでつくるものであるのに対し、信州風樹文庫は地域住民自らが求めてつくった図書館であるのです。

諏訪市旧中洲村の2人の若者が戦争からの復興の中、「茂雄の郷土に今こそ良書を」との熱い思いだけを胸に上京し、郷土の偉人である岩波茂雄氏が創業した岩波書店に本の寄贈を懇願しました。「創業者の出身地だから本をただでくれ、というのは単なるセンチメンタリズムだ」と厳しい姿勢だった書店であったが、青年たちの熱い訴えに、茂雄氏の息子である雄二郎氏が「亡くなった父ならどう考えるか」と考え協力を約束したのです。



こうして信州風樹文庫は、1947年に岩波書店から201冊の寄贈を受けることで始まりました。それ以来、「郷土に良書を」との思いを共有した地域住民らの手により大切に育てられてきました。「風樹」の由来は、岩波茂雄氏の座右の銘「風樹の歎（孝養を尽くしたいと思った時には親が死んでいてできない嘆き）」に拠るもので、信州風樹文庫は岩波書店が戦後に刊行した全書籍と三省堂や篤志家からの寄贈により成り立っています。同文庫の物語は、地域の発展を願ってやまなかつた旧中洲村の人々と、その理念に共鳴し、本を寄贈し続けてきた岩波書店や三省堂書店

などの出版社の人々、そして、様々な人々の思いを地域の中で継承する岩波さんをはじめとする諏訪市民のみなさんが紡いできた物語であるのです。

現在、この物語を受け継ぐのは信州風樹文庫の隣にある中洲小学校の子どもたちです。図書の閲覧・貸出しはもちろんのこと、本の整理を毎日、当番を編成して手伝っています。

講演の最後は、オリンピック日本女子スピードスケート史上初の金メダリスト、長野県茅野市出身の小平奈緒さんの言葉を引用し、信州風樹文庫のこれからとして締めくくりました。



与えられるものは有限、自ら求めるものは無限